

第3章 計画の考え方

1. 基本理念

『 みんなで育てよう、三芳の子どもたち 』

子ども達が健やかに育ち、また安心して子育てができる社会の実現が求められています。

少子化が進む現在、女性の社会進出や、核家族化の進行など、子どもとその家庭を取り巻く環境も大きく変化しています。

こうした中、子どもの育つ力を伸ばし、子育て家庭が安心して安全に子どもを生み、子育てができるよう、職場や地域の人々の理解と協力のもとに、社会全体で子育て家庭を支援していく必要があります。

そこで、三芳町は「みんなで育てよう、三芳の子どもたち」を基本理念として、町民の皆さんと協力しながら子育て支援を推進いたします。

2 . 基本的視点

前記の基本理念を実現するためには、次の3つを基本的視点とします。

- 基本的視点1 伸ばそう、子どもの育つ力
- 基本的視点2 とともに育つ、子どもと親
- 基本的視点3 みんなで支えよう、子育て家庭

基本的視点1 伸ばそう、子どもの育つ力

いじめや児童虐待などが深刻な社会問題として浮上する中で、「児童の権利に関する条約」の批准を契機として、子どもの人権を尊重することの重要性が社会に認識されつつあります。

しかしながら、子どもを一人の人格として捉え、その個性や自発性を尊重していく、という考え方は、十分に社会に浸透しているとはいえません。

子どもが、その個性と可能性を十分に伸ばし、豊かな人間性を育み、次代の親へと成長できるよう、子どもの成長を支援していく環境づくりをしていかねばなりません。

基本的視点2 ともに育つ、子どもと親

親は、子どもを育てることを通じて、自らも様々なことを学習し、成長していくことができます。子育ては、子どもと親とが、ともに育つ機会でもあるのです。

子どもを生み、育てて行きたいと考えている人が、子どもとともに成長していきけるような環境づくりをめざします。

基本的視点3 みんなで支えよう、子育て家庭

子どもとその家庭を支えていくためには、地域で子育てを支援していく体制づくりが求められています。

子育ての基本は家庭であり、家族がお互いに協力し合いながら、深い愛情と理解をもって子どもを育み、子どもを健やかに育てることのできる家庭を築いていくことは重要です。

しかし、核家族化の進展や地域との人間関係の希薄化などによって、家庭の子育て機能は低下してきています。

こうした状況の中にあって、地域に、子育ての支えあいの輪を広げていくことが重要です。

子どもは地域のみんなで育てる、という視点から、地域の人々が、子どもたちを温かく見守り、その親たちを優しく支えていくような地域づくりをめざします。

3. 基本目標

前述の基本理念に立って、次の6つの基本目標を設定し、施策を展開していきます。

- 基本目標 1 地域で子育てを支援するために
- 基本目標 2 子どもと親の健康づくりのために
- 基本目標 3 子どもの心身の健やかな成長のために
- 基本目標 4 仕事と子育ての両立のために
- 基本目標 5 安心して子育てのできる環境づくりのために
- 基本目標 6 子どもが安全に生活できるように

基本目標 1 地域で子育てを支援するために

核家族化や都市化の進展により、世代間で、自然に子育てに関する知識を伝えていくことが困難になっているとともに、地域の間関係が希薄化し、子育て家庭が孤立化する傾向があります。

こうした状況の中で、子育て中の親は、相談相手や手助けもなく、不安や悩みを抱えることとなります。

子育ての基本は家庭にあります。もはや、子育てを家庭だけが担うことは困難な状況にあります。

子ども健やかに育ち、親が安心して子育てをできるよう、子育て中の親たちが、様々な年代の子育て経験のある人々と自由に交流し、助け合えるような場所や機会を提供するなど、地域の人々も参加した子育て支援体制を構築していかなばなりません。

また、ひとり親家庭や、障害のある子どもがいる家庭など、子育て家庭それぞれの実情に合わせて、最も適切な子育て支援をしていくことも重要です。

三芳町は、「地域で子育てを支援するために」を基本目標として、町民の皆様とともに、子育て施策を推進していきます。

基本目標2 子どもと親の健康づくりのために

妊娠・出産から、子どもの思春期まで、子どもとその家族の心身の健康を維持・増進していくための支援を充実させることが求められています。

妊娠・出産・産後は心身の変化が激しく、母親は様々な不安や悩みを抱えることとなります。そこで、この時期に母親の心身の健康づくりを支えていくことが重要です。

また、乳幼児期は、生涯を通じた健康づくりの出発点であり、子どもの頃から適切な生活習慣を身に付けられるよう、親子の健康づくりを支援していくことが必要です。

さらに、学童期から思春期は子どもが心身ともに著しく成長する時期であります。この時期を通じて、子どもは、友達や親、周囲の人々との関係の中で、悩み成長していきますが、そうした心の成長を支えていく仕組みをつくることも大切です。

このように、妊娠・出産から、乳幼児、学童、思春期まで、子どもとその親の心身の健やかな成長を支援していくためには、ライフステージの変化に対応して、保健、医療、福祉、教育などの各分野が連携し、総合的な取り組みを必要としています。

三芳町は、「子どもと親の健康づくりのために」を基本目標として、町民の皆様とともに、子育て施策を推進していきます。

基本目標3 子どもの心身の健やかな成長のために

子どもが、社会や生活環境の変化に柔軟に対応できるよう、自主的な学習意欲と的確な判断力を身につけるとともに、他人への思いやりや自然への愛情を育み、心身ともに健やかに成長できる環境づくりが求められています。

そのためには、家庭、学校、地域など様々な学習の機会や人々との交流を通して、子ども一人ひとりが個性を伸ばし、豊かな人間性を育ていけるよう教育環境を充実させていくことが必要です。

また、子どもは、次代の社会を担う存在であり、その多くは将来、親として子どもを育てていくこととなります。そこで、子どもの頃から、乳児や幼児に接する機会を提供することによって、子どもとのふれあいを通じて、生命の尊さや子育ての意義や楽しさを、自然に学び、実感できるようにしていくことが必要です。

さらに、子どもの人権の擁護という観点に立って、地域の人々との協力を得ながら、児童相談所など関係機関が連携し、児童虐待の予防、発見、虐待を受けた子どもや、その親への支援を図ることが必要です。

三芳町は、「子どもの心身の健やかな成長のために」を基本目標として、町民の皆様とともに、施策を推進していきます。

基本目標4 仕事と子育ての両立のために

女性も男性も、ともに仕事と子育てに参画できるような社会が求められています。

女性の社会進出が進み、改正雇用機会均等法や育児・介護休業法が施行されるなど、女性が職場で働きやすくなるための法律や制度の整備・充実が急速に進んできています。また、男性が子育てに参加することの必要性についての認識も、若い世代を中心として、社会に浸透しつつあります。

しかしながら、依然として育児休業を取得しづらい職場環境が残っているほか、男性の育児休業の取得は進まず、男性の子育てへの参加も十分とはいえません。

今後は、女性も男性も、ともに子育ての責任を担い、仕事と子育てを両立させながら、働くことができるよう職場環境を改善するとともに、女性も、男性も意識を変革し、従来までの働き方を見直していくことが必要です。

また、通勤時間や就労形態が家族により異なる等、子育ての家庭の状況も多様化・複雑化しています。

このような子育て家庭の保育ニーズに対応できるよう、各種サービスの多様化と充実を図ることも重要です。

三芳町は「仕事と子育ての両立のために」を、基本目標として、町民の皆様とともに、施策を推進していきます。

基本目標5 安心して子育てのできる環境づくりのために

子どもとその家族をはじめ、高齢者や障害者まで、すべての町民が安心して利用できるよう、道路や施設のバリアフリー化が進んできています。

しかしながら、依然として、道路や施設の中には、子どもとその家族にとって、利用しづらかったり、安全や防犯の面で問題があるものも見受けられます。

そこで、ユニバーサル・デザインの観点も取り入れて、道路や施設の整備・充実をさらに推進することが必要です。

また、子どもが、安心しての伸び伸びと成長していくためには、子育て家庭がゆったりとして住まいに住めるよう支援していくことも重要です。

三芳町は、「安心して子育てのできる環境づくりのために」を基本目標として、町民の皆様とともに、施策を推進していきます。

基本目標6 子どもが安全に生活できるために

子どもが、社会の中で、交通事故や犯罪などの被害にあうことなく、安心して生活できる社会が求められています。

しかしながら、近年、子どもが犯罪に巻き込まれるケースが増え、深刻な社会問題となっているほか、依然として、子どもの交通事故は数多く見受けられます。

次代を担う子どもたちの生命を守るために、交通安全や防犯という視点に立って、まちづくりを見直すとともに、地域の人々と行政、関係機関が一体となって、防犯や交通事故の防止に取り組んでいかねばなりません。

三芳町は「子どもが安全に生活できるために」を基本目標として、町民の皆様とともに、施策を推進していきます。